

# 日本の廃道

The **Obsolete** Road in Japan

第 **50** 号

第一部

「日本の廃道」50号記念企画

## ● The Road.

「日本の廃道」50号記念ミニ企画

## ● 三島通庸関係文書 (通称・三島文書) 目録 —— 抜粋 ——

(by TUKA)


## ORJバックナンバーマップ

(by nagajis)

第二部へ

第三部へ





使われなくなった道を取えて使い、  
通れなくなった道を取えて通る。  
そんな道とのつきあい方に魅力を感じる人々  
“オブローダー”のための情報誌。  
それが「日本の廃道」である。

同時に、  
道としての役目を終えた廃道に、  
なにがしかの価値を見いだそうとする試みでもある。

時とともに失われた物は取り戻せないが、  
失う前に、出来ることがある。  
この日本を陰から支えてきた老兵たちに、光を当てたい。  
そこに息づく想いを、伝えたい。

「日本の廃道」編集部

# 小坂峠の新道開削碑



PAnasonic DMC-TZ3 F3.4 S1/60 ISO100

陸奥と出羽を結ぶ羽州街道。

その国境にある小坂峠は、お産の苦しみに例えて「産坂(さんさか)」とも呼ばれた難所であった。

その麓に建つ新道開削碑の一部。慶応2年(1866)建立。 [TUKA]

# The Road.

— 「日本の廃道」 50号記念企画 —

## 経緯

2005年7月に創刊号を発行して以来、紆余曲折を経て、50号という節目を迎えることができた。これを記念して何か企画をしたい、と考えていた時、編集会議の場で「**文章に頼らない、新しい表現方法による“道”の表現が見たい**」という話が出た。ORJは文字表現が基本で、良くも悪くも説明的だ。マンネリでもある。それを打破すべく、新しい表現方法——動画や音声、その他のメディアを利用した、文章表現以外の表現——による“道”を、皆さんから募集しよう。ちょっと漠然とした要望だが、そういうことになった。

折しも2010年5月15日にトークイベントが開催される予定だった。この場で会場の皆さんに審査してもらえば、公正な審査ができる。イベントのコーナーとしても面白そう。そんなこんなで話が進み、「“道”の新表現」コンテストなるものを開催することになったのだった。

## 募集要項

募集ページでは次のような募集要項を掲げた。

- ・ 画像、動画、FLASH、楽曲、彫像、書等、「レポート」形式以外で道を表現した作品を募集。芸術性を感じさせるものを重視。  
すなわち、あまり説明的なものでない、直感的なものほど可。
- ・ 現道、廃道を問わない。
- ・ 「日本の廃道」未購読者も歓迎。
- ・ 著作権的にオリジナルな作品であること。

あまり細かく規定し過ぎると作者のインスピレーションを阻害しそうだったので、できるだけ手短かに書いておいた。編集部としては「**芸術性を感じさせるものを重視**」にすべてを詰め込んだつもり。何を芸術と感じるかは人それぞれで、それを投稿すること即ち自身の価値観を表明したいという思いさえあれば何でもいい、という考えからだ。それはORJに掲載する原稿類と同じことだ。

## 日程と応募状況その他

- 4月後半 告知開始
- 5月第一週 募集受け付け
- 5月第二週 (一次審査)
- 5月15日 トークイベントの会場で審査

5月第二週の一次審査は、応募が殺到した場合のことを考えて用意していた（イベント会場で審査すると時間がかかりすぎるため、ここで10件程度に絞り込む予定）が、最終的に11件の応募となり、時間的にも可能そうであったので、実際には行なっていない。

急遽決まった企画で、最終審査まで1カ月もないタイトスケジュールとなってしまったが、結果的にはさほど障害にはならなかったようだ（もっと時間がほしい、というお声もいただいたが…）。私個人はこの頃お会いした方々に「こんなことをやりますよー」と声をかけた程度で、無理に勧誘はしなかった。

## 審査

2010年5月15日、大阪日本橋ジャングルにて行なわれたトークイベントにて、イベントに参加された皆さんに審査していただいた。回答用紙と筆記用具を配り、壇上で紹介する作品に「グッ」と来たら○をつけてもらうという形式。○の数は制限しなかった。適当と言えば適当だが、感性に頼る審査なのだから、それくらい直感的なもののほうがいい。

作者の簡単な紹介、作者からのコメント（あれば）、作品の順で紹介した。機材の不調でDVD再生に手間取り、かなりバタバタしてしまったのは陳謝する。事前チェックでは正しく再生できていたのだが…。これが審査に影響したかどうかは不明だ。その他の作品も、すべて上手に紹介できたか問われれば「うーん」と言わねばならない。その辺りはどうかご了承願いたい。

参加者81名、うち回収できた投票用紙は65枚。それなりの回答数で、審査結果はそれなりに公平なものになったと思う。



## 作品の誌上紹介

それでは、応募作品を紹介する。DVDで応募していただいた作品もあり、本来ならその高画質で見えていただくべきなのだが、容量やサーバの関係からデータ圧縮をかけた形式にせざるを得なかった。またWebで公開できない形式の応募もあった。すべてをお伝えできないこと、ご了承願う。

各作品は冒頭に大きく掲げる。画像はできるだけ高解像度で添付してあるので、隅々まで拡大して見ていただきたい。作品ページ以降に作品解説と編集部評を掲載する。審査結果は最終ページに。

以上、長々と説明した。あとは直感的に楽しんでいただきたい。できれば感想をアンケートで教えてほしい。これは編集部のためではなく、作品を投稿された方のためである。

# The Road.

投稿作品紹介



entry.

1

道

投稿者・辰さん





## エントリーNO.1

### 道

辰さん／水墨画

いきなり想定外の「水墨画」。切り立った岩山の麓、山桜の咲く山道を力強く描いた作品。たしかに道は水墨画のモチーフとして取り上げられることが多く、本作品も〇〇派の作と解説して通じそうな勢いだ。タイトルはこちらで「道」とつけさせていただいたが、もっとひねって「そばみちやまざくらのず崎路山桜図」とか何とかにしたほうが良かったかも知れない。

#### 【編集部評】

- ・ 応募者の着想を妨げないよう、わざとあいまいなテーマ・表現媒体で募集したが、こう来るとは思わなかった。いい意味で予想を裏切られた作品。道の続きに思いを馳せてしまう。
- ・ 山桜の桃色が墨に映えて美しい！
- ・ 「道」というより「山」の印象が強かったです。

entry. 2

# のたうつ『険道』

投稿者・馬渕さん



## エントリーNO.2 のたうつ『険道』

馬淵さん／画像



解説なしで伝わるインパクト画像。紹介した瞬間のどよめきは中々のものがあった。

「長野・愛知・静岡の秘境地帯を徘徊しまくる、あの険道1号“飯田富山佐久間線”。距離も長いが、名前も長い…。地図上でもコイツは、なんでこんなに“のたうちまわってる”のか。途方もなく、果てしなく感じる佐久間湖沿いの、一瞬モンテカルロかと錯覚させる、あのグネグネ。それを象徴する姿である。」（投稿者自薦コメント）

### 【編集部評】

- ・ここまでくねくねしている&くねくねを見通せるのはすごい。アングルの勝利やね。
- ・現代的な道路だったら直線で抜けてる場面だろう。歴史のある道だからこそこの“のたうち”だ！
- ・こういうアングルはありそうで中々ない

entry. 3

# 森のイタリア

投稿者・おやっさんさん

## エントリーNO.3

### 森のイタリア2

おやっさんさん／オリジナルサウンド

イタリアを旅した友人の写真から着想を得たという「ロードミュージック」。2本いただいたうちのひとつで、田舎道から街へ入り、教会に出会うシーンを表現したもの（もう一つは [こちら](#) 。田舎の鉄道駅から街場へ向かう道）。実は還暦間近という作者、「福島最高齢の自称「テクノミュージシャン」」と謙遜されるが、なかなかどうして！

#### 【編集部評】

- ・ 静かな森の道をのんびり歩いていく雰囲気や、賛美歌がかすかに聞こえてくる教会に出会い、立ち止まって聞き耳を立てている姿が想像された。環境音楽としてずっと流していたい。
- ・ 同じ旋律の繰り返し、道が続いていく様子を再現しているように感じた。



entry. 4

# 日本の道

投稿者・謎の元自衛官さん



## エントリーNO.4

### 日本の道

謎の元自衛官さん／映像



勢いのある音楽とフォトジェニックな道の画像でグイグイ描き上げる「日本の道」。過去の道から現在の道路技術の頂点まで余す所無く網羅しており、知らず知らずのうちに道の来し方行く末に思いを馳せてしまう。「余裕ができたならHP復活します！」（作者コメントより）

会場では機材の故障で高画質版をお見せできなかったのが残念（そもそも会場のプロジェクタおよび音響がイマイチだった…）。大変失礼しました。

#### 【編集部評】

- ・ この勢いはまさに作者の魂の叫び。
- ・ 構成が見事。長さを感じさせない。
- ・ さすがと言うか、手慣れた感じ。

entry.

5

ごま(ぎ)さんの穴

投稿者・えもさん



## エントリーNO.5

### うさぎさんの穴

えもさん／画像＋ネイルアート



廃隧道を「不思議の国のアリス」に出てくるウサギの穴になぞらえた作品。「準備不足で携帯電話のカメラでの撮影になってしまったのが残念」（作者コメント）。隧道は仙台市の定義街道・高柵隧道。陸軍工兵隊によって明治17年に開削、昭和8年にも同隊によって拡幅された道だという情報もいただいた。

#### 【編集部評】

- ・この隧道…アプローチするのも大変なんだよね。ネイルアートのまま行ったのだろうか？
- ・ネイルアートとのコラボというのが斬新で、女性ならではの感性がイイ！ 懐中時計がぶら下がっているとイイ！
- ・この作品には意表を突かれましたね。

entry. 6

# 隧道連作

投稿者・こけさん

ただ この暗闇の先にある  
あの白い光の  
その先が見たくて



未知

entry. 6

# 隧道連作

投稿者・こけさん

アーチ

人々の願いと共に積み上げられた煉瓦  
幾世の月日が経ち  
草に覆われ 木々に塞がれても  
希望に満ちた赤色は 気高く佇んでいる

今はもう訪ねる人もなく  
今日も風が過ぎゆくだけ

entry. 6

# 隧道連作

投稿者・こけさん



こんなに大きな構造物の  
こんなに小さな小さな仕掛けが  
この古い隧道を守っている

雨上がりの小さな噴水

噴水

entry. 6

# 隧道連作

投稿者・こけさん

寂れた道



ねえ だあれもこないね  
落ち葉もおちっぱなし  
おおきな枝もだれもよけてくれないの  
寂しいね  
でも 春になったらあの木にピンクの花が咲くし  
そしたら うぐいすも遊びにくるよ



## エントリーNO.6

### 隧道連作

こけさん／画像＋詩

女性の投稿が続く。組写真に詩をつけた連作。優しさと鋭さを兼ね備えた視点で（廃）隧道が描かれる。なお、撮影場所は左上から谷坂隧道、旧長島隧道、旧坂下隧道、横山隧道とのこと。会場ではnagajisがむき苦しく朗読したが、これはやはり本人に語ってほしかった。



#### 【編集部評】

- ・「噴水」の目の付け所と解釈がいいね。確かに隧道はこのような水抜き穴があってこそ保たれる。
- ・廃れた道の寂しさを表現するだけでなく、明るい未来も描いているところに好感が持てた。
- ・この企画をやって良かった、と思いました。

entry. 7

# 萬代橋

投稿者・えむさん



## エントリーNO.7

### 萬代橋

えむさん／画像



サイクリングで訪れた新潟市の萬代橋。画像処理して色調を落とすことで「水面と周囲の建物、そして橋梁にそれぞれ別の存在感を持たせることができたかな」との作者コメントをいただいた。まさしくその通り、コンクリートの冷たい質感が強調され、信濃川の青と鮮やかな対比をなしている。

#### 【編集部評】

- ・ 主題となるはずの橋の色をトバして川だけ色を残したところに、何かしら意図を感じますな。オモシロイ。
- 📖 新潟出身の渡辺（仮）氏に興味深い評をいただいた。背景となっているのは新潟旧市街で、対岸に鉄道ができたことで衰退、打開策として作られた万代橋も奏功しなかったという。そんな歴史を表現するものだったのだ（えむさんはそこまで意図していなかったそうだ）。

# entry.8 The obsolete road and GIRLS

投稿者・なるせさん



「廃道も普通に通れたらって、思ったことないかなあ？」

## エントリーNO.8

# The obsolete road and GIRLS

なるせさん／映像



作者の提唱する「オブドーリング」(Ob-dolling: 廃道をリアルジオラマとしてフィギュアを撮影する趣味・趣味者をオブドーラーと云う)を真正面から表現した作品。作り込まれた映像と、映像にマッチしたミュージックセレクトに会場が湧いた。

### 【編集部評】

- ・ 廃道に人形（ピンキー）があるだけだということに、自然と物語が浮かんでくる。写真も見事。こういう形で世界観が構築できるとは思ってもいなかったのだからウロコだった。
- ・ 発想がすばらしい。フィギュアが外へ出るとこうなるのだなあという発見があった。nagajisもJIS男人形で参加し（ry
- ・ 写真が上手ですね。BGMは著作権的にどうなんだろう？

entry. 9

# 天王峠をゆく

投稿者・うしじまさん



## エントリーNO.9

### 天王峠をゆく

うしじまさん／映像



天王峠旧車道（大阪府能勢町・旧国道173号）をバイクで流し撮りし、ナレーションを加えた作品。静かな口調で語られる「廃道のいま」が印象的。

「映像製作個人」を営む作者のこの作品はDVDで頂いたが、レーベルまで自作という本気の作だ。



#### 【編集部評】

- ・ 舞台（天王峠）を知っているせいかも知れないが、とても楽しめたし、今まで気づかなかった良さも再認識させられた。いわゆる「走ってみた」系とは対極にある、情緒的な作品にうっとり。
- ・ 淡々とした語り口が旧道の寂しさによく合っていた。途中でエンジンを切り、静寂のなかを下っていくところはよく考えられていると思う。道への愛？

entry. 10

# 遍路路

投稿者・マフラー巻きさん



エドヒガン  
散るこの道を  
遍路往き



entry. 10

# 遍路路

投稿者・マフラー巻きさん



桜舞う  
遍路道にて  
夢想う



エドヒガン  
散るこの道を  
遍路往き



桜舞う  
遍路道にて  
夢想う

## エントリーNO.10

### 遍路路

マフラー巻きさん / 画像 + 俳句

「無い脳みそを絞って考えた」と仰る俳句2首を、遍路路に咲くエドヒガンザクラの写真に添えて。構成からして王道である。会場のスクリーンではうまく伝えられなかったが桜の美しさも見どころ。桜と、桜の下に立つ人物の大きさを比べてみていただきたい。

#### 【編集部評】

- ・ いい句ですな。ORJでも「廃句」をやっているが、こういう系統の表現（写真+句）は誰でも気軽にできてそれなりにさまになる。おすすめ。
- ・ 一句目は季語がないので「往く遍路 急かすごとくに桜東風」とか何とかしてははどうでしょう。（受付）
- ・ 一首に絞るか、2画像二首で見たかったです

entry. 11

# ワンダーランド

投稿者・The Kateさん

思い出す度、些細な違いに気づく度  
何を手にしたろう  
歩を進めて、未踏の世界をなぞる時  
何を手にしたろう

今、壊れだした 深い闇に飲まれたんだ  
今、壊れだした 誰も気づかぬうちに

深い青と焦げた褐色が育った世界  
そこに落ちてきたんだ  
見たい先と見てきた過去を想う程  
世界は美しいんだ

今、溢れ出した 湧き出す水のように  
今、溢れ出した 言葉以上の光が！

懐かしむようにレールを辿れば  
誰かの息吹が聞こえてくるようで

追いかけた先の轍が彩る時代を、  
歴史を、世界を見ている

見上げた青空 差し込む光は  
いまへと繋がるこの道を包む

思い出す度、些細な違いに気づく度  
何を手にしたろう  
歩を進めて、未踏の世界をなぞる時  
何を手にしたろう

今、壊れだした 深い闇に飲まれたんだ  
今、壊れだした 誰も気づかぬうちに

深い青と焦げた褐色が育った世界  
そこに落ちてきたんだ  
見たい先と見てきた過去を想う程  
世界は美しいんだ

今、溢れ出した 湧き出す水のように  
今、溢れ出した 言葉以上の光が！

懐かしむようにレールを辿れば  
誰かの息吹が聞こえてくるようで

追いかけた先の轍が彩る時代を、  
歴史を、世界を見ている

見上げた青空 差し込む光は  
いまへと繋がるこの道を包む

## エントリーNO.11

### ワンダーランド

The Kateさん／オリジナル曲生演奏

ネットで月一回オリジナル歌曲を発表しているThe Kateさん。エントリーは今回のために書き起こしたという新曲だ。録音したものはないそうで、皆様にお届けすることができないのが残念（デジカメで動画を撮っておけば良かった…）。演奏することも含めて“表現”ということでご了承いただきたい。

#### 【編集部評】

- ・失われつつある道を情緒豊かに描いてみせた作品。導入のギターがいいっす！
- ・聞き終えて気づいたんだけど、「道」という言葉が出てくるのは最後の最後なんだよね。それでも道を表現しているというのがわかった。

# The Road.

結果発表

# 最優秀賞

entry. 4

## 日本の道

投稿者・謎の元自衛官さん

得票数：39票

# 優秀賞

entry. 2

のたうつ「険道」

投稿者・馬淵さん

得票数：36票

# 優秀賞

entry. 6

## 隧道連作

投稿者・こけさん

得票数：35票



## 講評のごときもの - nagajis、編集部を代表して

文字文字したORJで「文字に頼らない表現方法」を募集するという、半ば自己否定的な企画をやってみたわけだが、ただ単に自分達が普段やらない表現を見たい、そこから新しい表現方法を学びたいという思いがあったからであって、何か裏があったり打算があったりしたわけではない。募集しても応募がなかったらどうしよう、などと心配したりもした。しかし蓋を開けてみれば、短い募集期間のうちに11もの作品応募があり、いずれ私たち編集部の想像を超えた作品ばかりだった。審査していただいたみなさんにも少なからぬ刺激になったと思う。投稿して下さった方々には心からお礼を申し上げたい。

道といっても千差万別だから、イメージするものも人それぞれ違う。バラエティ豊かな作品が集まったのはそのせいだろう。いちいち瞠目してしまった私は「道」についての見識が狭いと言えるし、そうなれるほどの作品を頂いて目論見通りだったとも言える。私も応募作品に倣って、もっと豊かな「『道』のイメージ」を得ていきたいと思う。

ちょっと意外だったのは審査の結果だ。「映像」「音楽」といった目新しい媒体のほうが強い印象を与えられて有利かと思っていた（確かに高い評価を受けた）が、それと同様の評価を「画像」(+α)の構成が得て、上位争いを演じた。形式は何であれ訴えるものがあれば通じるということだろうか。それを考えると文字しか頼る術がない私にも勝機があるのかも知れない、などと考えてはいかんのだろうな。

# The road.

—ORJ50号記念企画—

**この記事の感想をお聞かせください。**

公式サイトアンケートのほか、下記フォームからお送りいただくこともできます。みなさまのご意見、お待ちしております！

1.この記事はいかがでしたか？

←つまらない・役に立たない    ふつう    おもしろい・役に立つ→

1

2

3

4

5

2.コメントをどうぞ！

(空欄でも結構です。内容は「日本の廃道」公式サイトや本誌で公開する場合があります。公開を希望されない場合は「公開不可」にチェックを。)

公開不可

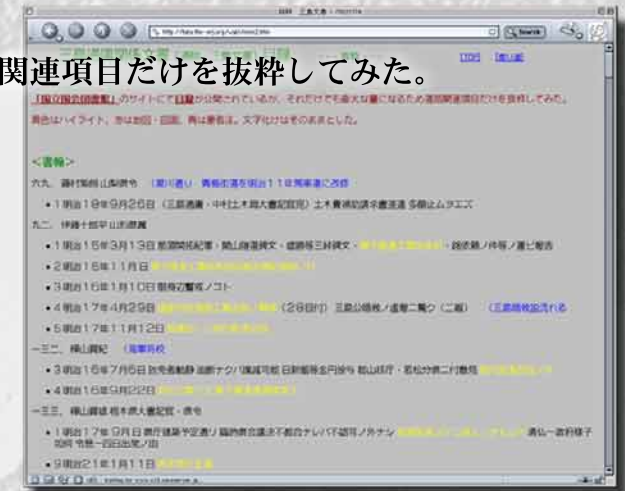
次号発行まで保留

# 【ミニ記念企画】

## ●三島通庸関係文書 (通称・三島文書) 目録 —— 抜粋 —— (by TUKA)

「国立国会図書館」のサイトにて目録が公開されているが、それだけでも膨大な量になるため道路関連項目だけを抜粋してみた。  
黄色はハイライト、赤は地図・図面、青は筆者注。文字化けはそのままとした。

<http://core.the-orj.org/50/misimadoc/misi.htm>



## ●ORJバックナンバーマップ (by nagajis)

過去に紹介した廃道物件をGoogle mapsにマッピングしました。とりあえず動いています。  
地図右の号名をクリックすると表示します。改良案募集中！

<http://core.the-orj.org/50/kijimap/index.php>

